

サロンでの気づき

サロンを訪問させて頂き、気づいたこと、聞いたことなど、お伝えしたいと思います。何かお役に立てれば嬉しいです。

毎日暑いが続きますね。毎年収穫を楽しみに育てているゴーヤも、例年に比べ成長が悪い感じがします。ちゃんと収穫できるのか心配です。私達も暑さに負けないで頑張ってください。



さて、先日、心温まる情景に出会いましたのでご紹介させていただきます。

渋滞しそうでない交差点に差し掛かった時、横断歩道を渡りきる手前で車が進まなくなったので、どうかしたのかなと思ったら、道路の真ん中の車と車の間に盲導犬

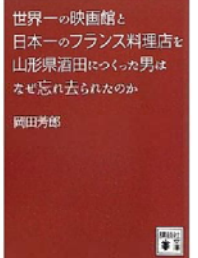
の姿が見え、その隣にはメガネをかけたおじさんの姿が見え、立ち往生して困っている様子でした。おじさんに気づいた信号待ちをしていた自転車に乗った若い女性が急いで自転車を



その場に置き、おじさんのところに歩み寄ったところ、置いた自転車が倒れたのですが、女性は後戻りせず、おじさんのところに向い、手を引いてあげていました。同じ信号待ちで隣にいた男性が、倒れた女性の自転車を邪魔にならない場所に移動してあげていたのです。

ほんの一瞬の出来事でしたが、自分のことより、困った人を見て、すぐに行動をおこした二人の思いやりのある姿に感動し、美しいと思いました。

続いて、先月ご紹介させて頂いた本『世界一の映画館と日本一のフランス料理店を山形県酒田につくった男はなぜ忘れ去られたのか』ですが、本屋大賞を受賞した『海賊とよばれた男』と同様、主人公の生きざまに感動しました。



私は大学を卒業して8年間新潟県で働きましたが、その時に山形県の酒田出身の方に美味しいレストランがあるからと誘われ『ル・ポットフー』に一度食べに行ったことがあります。もしかしたらその時、主人公の佐藤久一氏に会っていたのかもしれませんが、はっきり覚えていないのが残念でなりません。久一のことを共に働いた人は、『どうしたらお客さんが満足するかだけを考えている人で、お金のことなんてこれっぽっちも考えていないようでした。』と語っています。

久一の仕事ぶりを本の一節からご紹介させていただきます。『映画館の入口を回転ドアにしたのは久一自慢のアイデアである。当時回転ドアは、東京や大阪のホテルなどでしか見かけなかったが、そこに久一は目をつけたのだ。回転ドアを押して映画館に入るなんて、それだけでも胸が高鳴る。しかも、場内に足を踏み入れるや、グレーのダブルのジャケットと黒ズボン、蝶ネクタイ、白手袋で正装した白髪案内係・吉本元太郎が、「いらっしゃいませ」とこやかに迎えてくれる。一流ホテルか高級レストランのような接客に、初めての入場者はみな度肝を抜かれた。・・・』

もし、久一が美容室をつくれたなら、どんな美容室をつくるのかワクワクします。

最後は、テレビ番組でソフトバンクの孫正義氏が、未来を担う30人の高校生に向けて送ったメッセージをご紹介します。



アドバイス①

ちょうど皆さんの年頃に決意して渡米した。
若いということは無限大の夢があって
自分の持った夢に
自分の人生は おおむね比例する結果を生む

小さな夢だったらその夢の範囲の中で
80%達成できるのか50%なのか
夢はできるだけ 大きい夢を持った方がいい

アドバイス②

夢を達成できる人とできない人の唯一の違いは

その夢をどのくらい心の底から
達成したいと思うのか
すごい強い決意をしその夢の達成に向かって
恐ろしいまでの情熱で努力をしたか

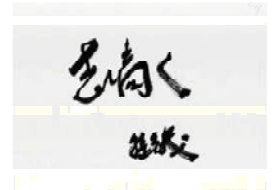
夢の大きさは
金額的な大きさをなくていい
「世界一おいしいパンケーキを作れる人になりたい」
ということだって でっかい夢だと思う
「世界一上手にピアノが弾けるようになりたい」
これもでっかい夢だと思う
自分は画家にもなりたかった
僕がなりたかった画家は貧乏画家
「お金持ちの画家はその時点で墮落している」
「人に売るために絵を描くんじゃない」
「展覧会に出すために絵を描くんじゃない」と

ゴッホのような生きざまが一番尊敬できる
展覧会に出して有名になるとか
画商を通じて高い絵を売るという
画家を目指すより

自分が一番描きたい絵
世の中の常識と関係なしに
自分が一番納得する 自分が一番描きたい絵
それでもものすごい素晴らしい
でっかい夢だと思う

夢を描くのが自分の人生に対するビジョン
自分の夢も明確に持たずに
自分の人生に対するビジョンも持たずに
ただ生きていくために給料をもらいにいく
「でも現状それしか仕方ない」と言ってる間に
人生はあっという間に終わる
あっという間に50代、60代になる
「現実はこちらだからといって
夢物語ばかり語ってもダメ」
「目先の現実を踏まえて」とか
言ってる人ほど
現実の世界から逃れられないまま
人生が終わる場合が多い

現実が厳しいからこそ自分の夢を
自分の人生に対するビジョンを
しっかり持つべき
志高く



孫さんが話されたように、ゴッホは画家人生わずか10年間に2,000点もの作品を制作したにも関わらず、ゴッホの生涯で売れた作品は、たったの1枚だけだったそうです。

7月22日(月)～9月23日(月)の間、
広島県立美術館でゴッホ展が
開催されます。
また、ひろしま美術館には常設の
「ドービニーの庭」が展示されています。



ドービニーの庭

暑い日には美術館で涼みながらゆっくり作品鑑賞するのもいいかもしれません。